

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスセンターan		
○保護者評価実施期間	R7年2月10日		～ R7年3月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	R7年2月10日		～ R7年3月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用児と保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)を作成している。また、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解のもと、作成している。	<ul style="list-style-type: none"> ご家族からの聞き取りや行動観察によるアセスメントに加え、医療機関等でのフォーマルな検査の報告書、計画相談や他事業所の支援計画およびモニタリング等も参考にする。 児童発達支援管理責任者だけでなく正職員全員で計画策定会議及びモニタリング会議を実施している。 インテーク時のアセスメントシートなども活用し、ニーズに沿った計画を策定するように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントシートを改定する。 人材育成を兼ねてフォーマルな検査の実施を再開する。
2	個別支援計画を示しながら、支援内容を説明する。	<ul style="list-style-type: none"> 「ご本人の目標」、「目標を達成するための手立て(支援員の役割)」を明確にお示しする。 短期目標は、3ヶ月または6ヶ月で達成可能な具体的な目標を設定する。 ご利用児の強みや課題を踏まえ、根拠ある説明を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者のニーズが反映されているケースが多いため、ご利用時本人のニーズに沿った計画となるよう、表出コミュニケーション支援に尽力する。
3	わかりやすく構造化された環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのご利用児に合わせて、棚の位置や机の向き、遊ぶ場所などの環境設定し、「どこで」「何を」「どれくらい」「どうやって」「いつまで」などが分かりやすいように配慮している。 それぞれが理解しやすい形式のスケジュールを用意し、見通しをもって安心して活動できるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 提示するスケジュール、手順書など共用されているものが多いので、よりそれぞれのご利用児にあったものを作成していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の皆様が児童療育施設に対して、どれくらい関心を寄せておられるかの把握すらできていなかった。 地域に出向いて活動することは取り組みを進めてきたが、地域住民の皆さんをご招待することは検討したこともなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のご意向をうかがい、事業所として地域に貢献できるまたは地域の一員と成り得る方法を検討する。
2	事業所の活動プログラムがやや固定化されつつある。	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントやニーズの把握が不十分であったことも遠因にあり、結果として個性よりも状態が似ているのお子様へ共通したプログラムを提供する傾向にあった。 支援の手立ての引き出しが不十分だった。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントやニーズの把握を丁寧に行い、まずは個別支援計画で個々に合わせた目標設定と支援内容を明記する。
3	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解が不十分であった。また、放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他のこどもと活動する機会がなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ご家族や相談支援事業所を介しての情報交換や関係者会議での情報共有はあったが、それぞれの支援内容や環境を直接知る機会はなかったため、相互理解がどこまで進んだかはわからない。 児童クラブや児童館との交流については、そもそも交流を検討したことがなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 双方が訪問し合うなど、積極的な情報交流など相互理解を推進する機会を創出する。 児童クラブと児童発達支援事業所との交流の先行事例から学ぶ。